

今年度の取り組み(案)

現地視察資料

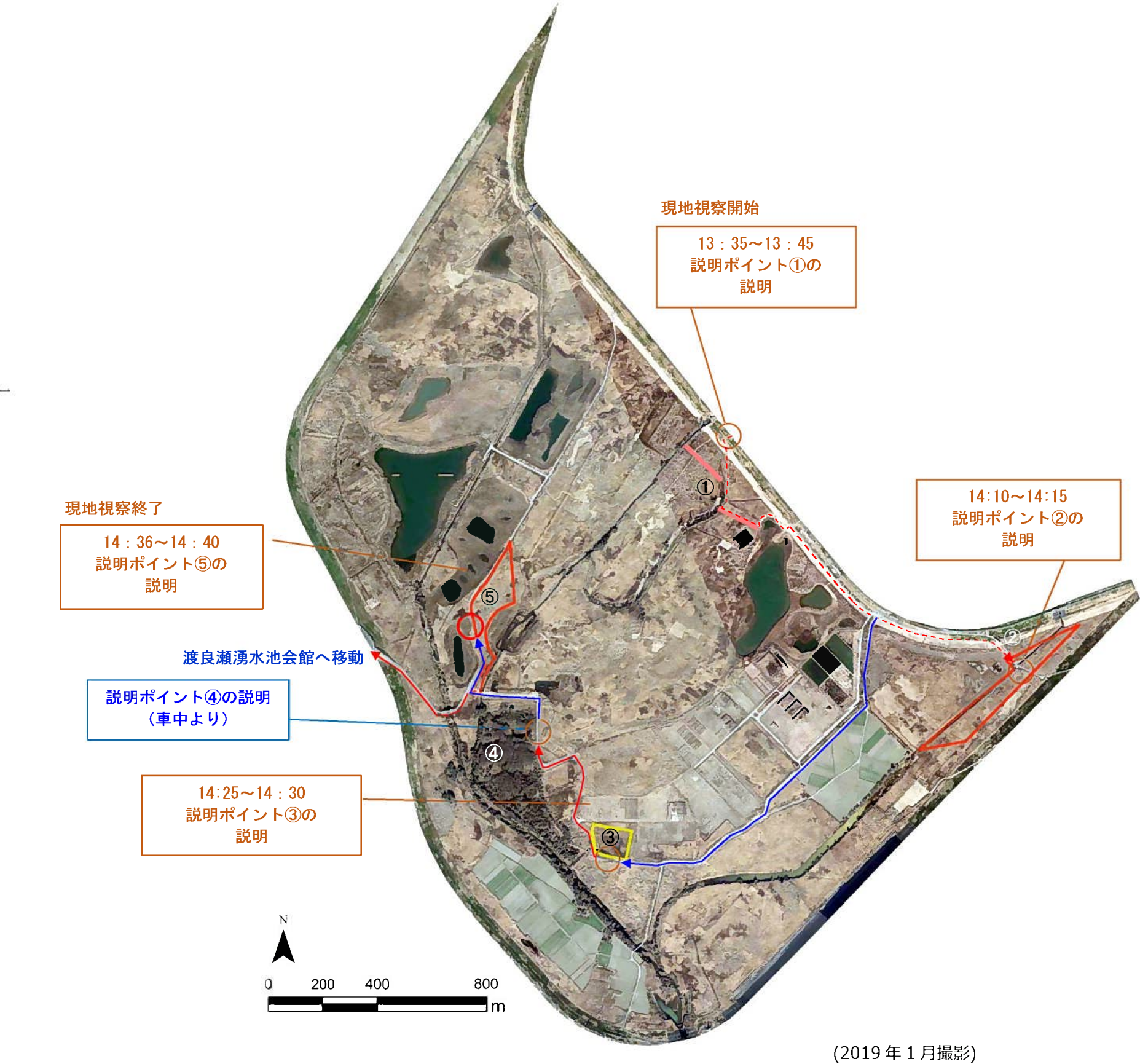
目次

1. 現地視察行程	1
2. 現地視察ルート.....	1
3. 視察地点の概要	3
3.1 水系ネットワークの構築	3
3.2 R1年度掘削地(2)	4
3.3 湿性草地再生実験地.....	8
3.4 ヤナギ高木林	10
3.5 R1年度掘削地(1)	11

1 現地視察行程

説明ポイント	開始時間	終了時間	滞在時間	視察地点	頁
	13:30		—	生井桜つつみ 集合	—
①	13:35	13:45	10 分	① 与良川、旧与良川接続部	3
	13:45	14:10	25 分	説明しながら徒歩にて移動	
②	14:10	14:15	5 分	② R1 年度掘削地(2)	4
	14:15	14:25	10 分	移動	
③	14:25	14:30	5 分	③ 湿性草地再生実験地	8
	14:30	14:33	3 分	移動	
④	車中より説明			④ ヤナギ高木林	10
	14:33	14:36	3 分	移動	
⑤	14:36	14:40	4 分	⑤ R1 年度掘削地(1)	11
	14:40	15:00	20 分	遊水池会館へ移動	

2 現地視察ルート



図－1 現地視察ルート

3 視察地点の概要

3.1 水系ネットワークの構築

■コウノトリの採餌環境改善のため、与良川と環境学習フィールド(3)を簡易水路で接続することを渡良瀬遊水地エリアエコロジカル・ネットワーク推進協議会において検討中。



①与良川接続部(上流)



②与良川接続部(下流)

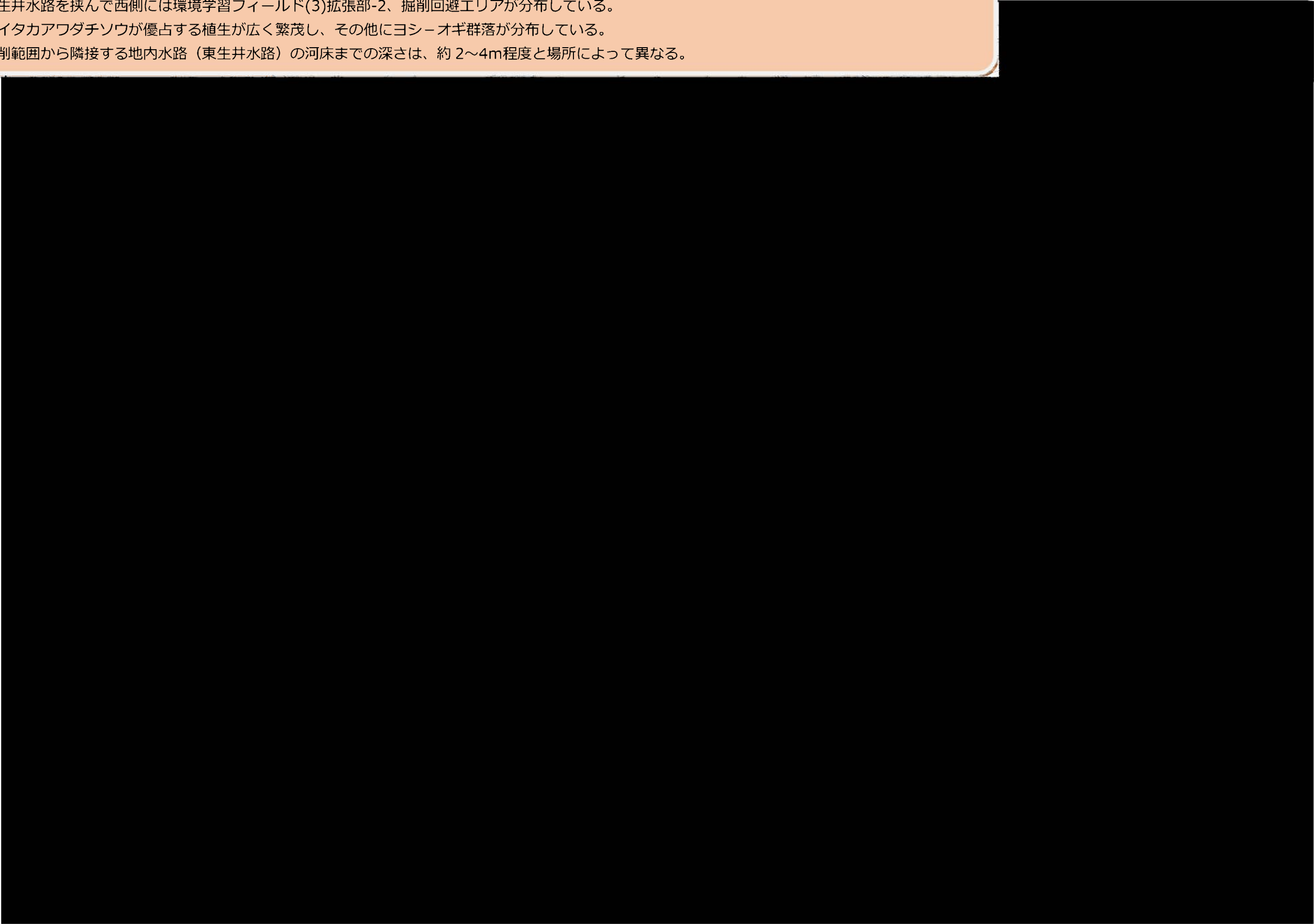


③旧河道接続部



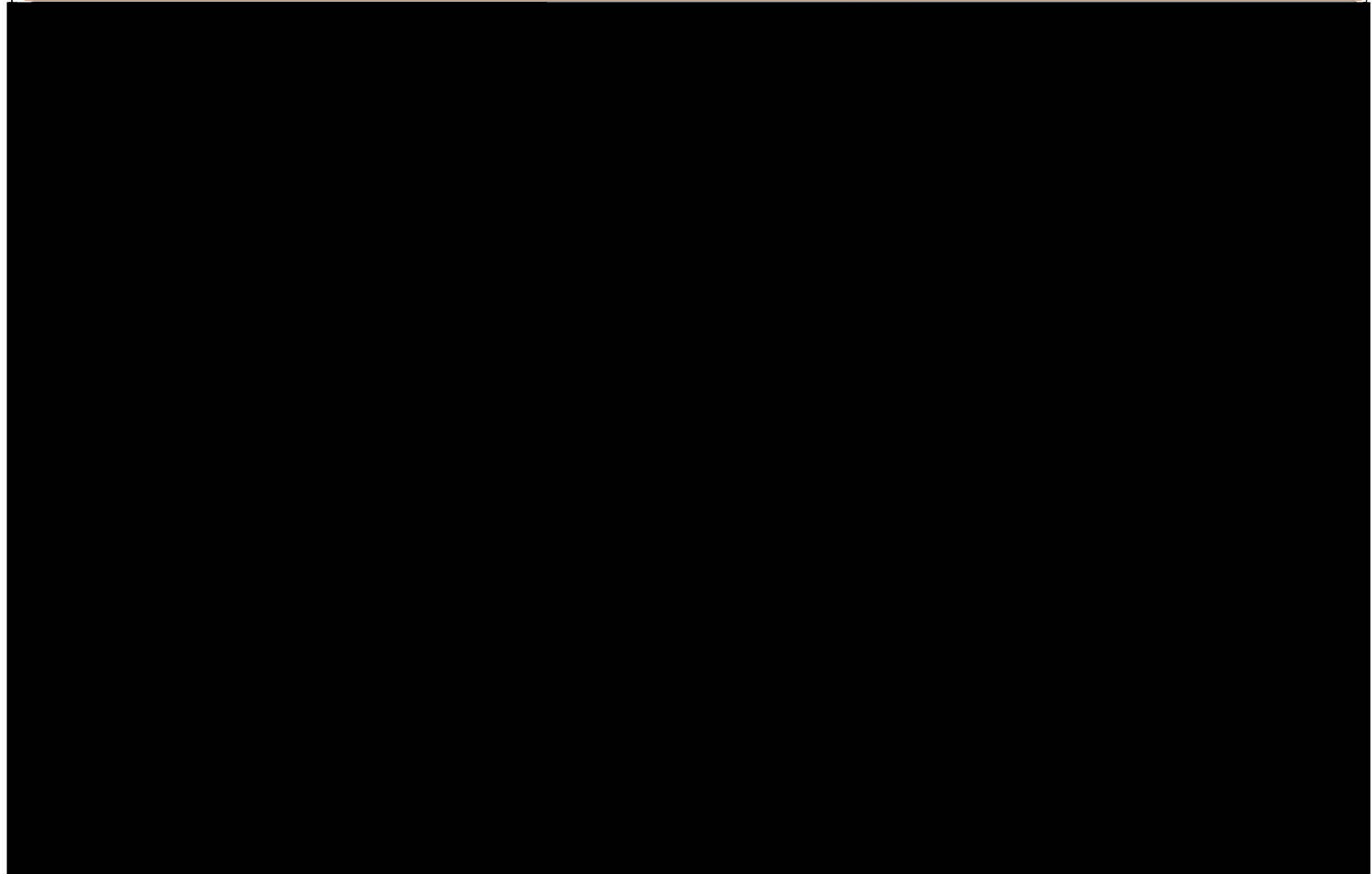
3.2 R1 年度掘削地(2)

- 東生井水路に隣接し、第 2 調節池の東端付近の堤防沿いに位置する面積約 4.8ha の範囲である。
- 東生井水路を挟んで西側には環境学習フィールド(3)拡張部-2、掘削回避エリアが分布している。
- セイタカアワダチソウが優占する植生が広く繁茂し、その他にヨシ・オギ群落が分布している。
- 掘削範囲から隣接する地内水路（東生井水路）の河床までの深さは、約 2～4m程度と場所によって異なる。



図－3 今年度掘削地(2)における植生分布状況

- 隣接する池内水路における H29 年度の水面水位観測結果は、6 月～9 月までのかんがい期には上流の水田からの排水が流入するため、水位は Y.P.11.8m 前後を推移するが、11 月以降の非かんがい期は Y.P.11.6m 程度を推移している。
- 観測期間中には最大で Y.P.15.6m まで水位が上昇した。Y.P.12.0m 以上の水位上昇の多くは第 2 排水門内の水位と一致することから、第 2 調節池全体の水位上昇に伴うものである。Y.P.12.0m 未満の水位変動は、池内水路の上流からの流入水によるものと考えられる。



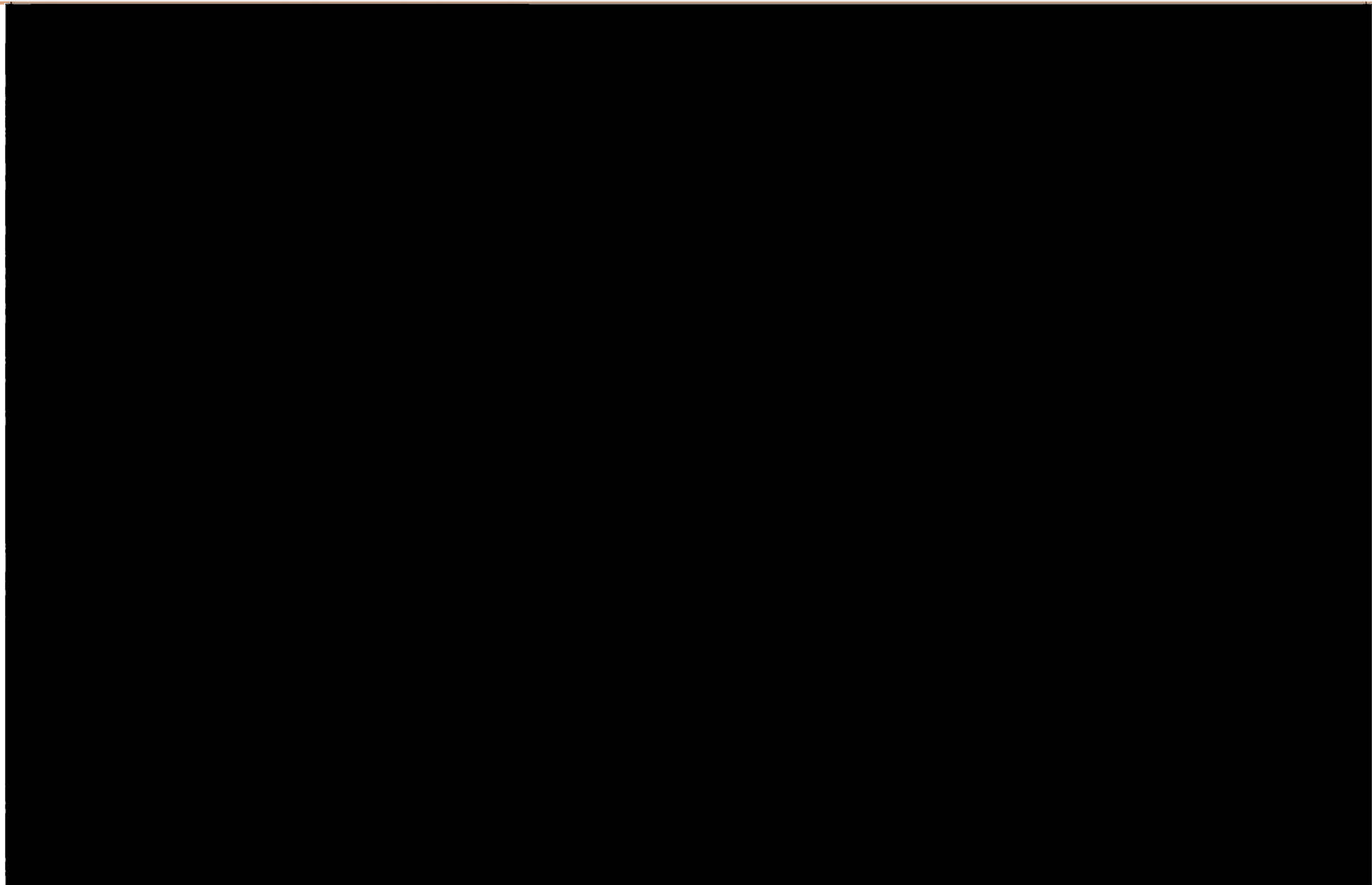
図－4 今年度掘削地(2)の掘削前の空中写真及び地下水位の状況

【堤防の保安距離の確保】

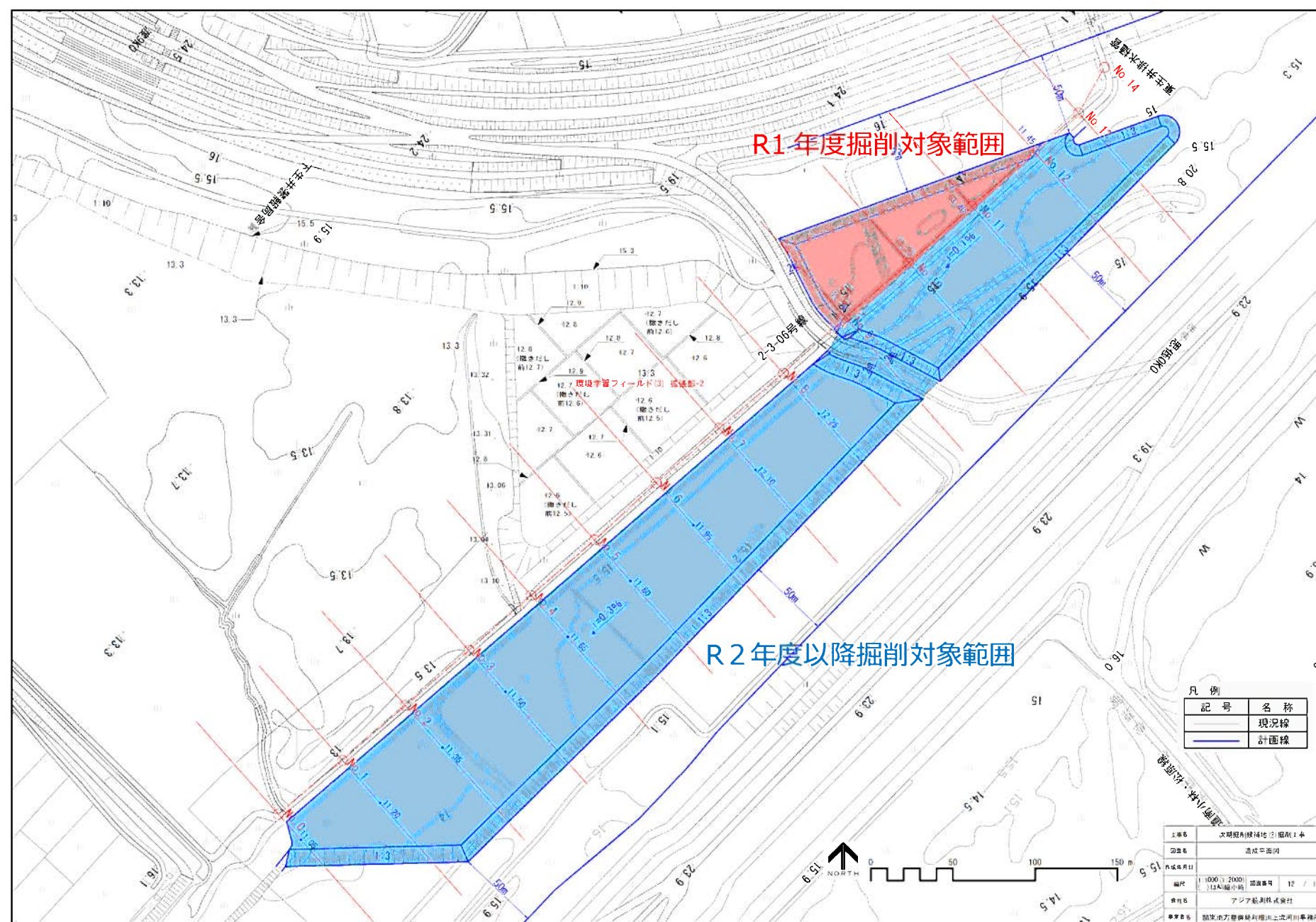
- 北側と東側が第2調節池の堤防に挟まれた範囲となっており、堤防の保安距離として幅50mを確保しこの範囲は掘削範囲としない。

【攪乱環境の造成】

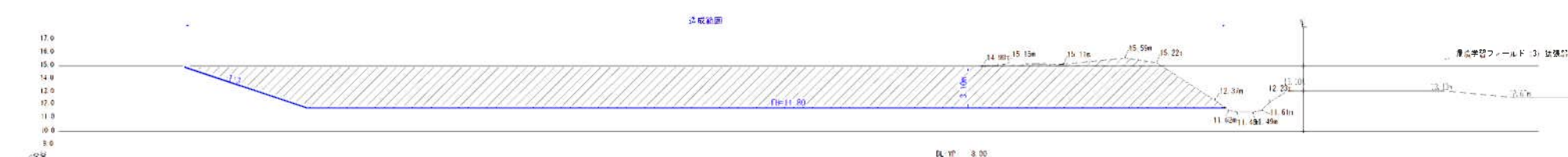
- 掘削対象地の道路を挟んで北側は、隣接する池内水路（東生井水路）の河床と同程度まで掘削し、池内水路の増水に際して一定の頻度で攪乱を受ける自然裸地や一年生草本群落の優占する環境を創出する。
- 掘削対象地の道路を挟んで南側は、隣接する掘削回避エリア及び環境学習フィールド(3)拡張部-2の地下水位が低下しないように、池内水路の夏季の平均的な水面水位を維持し、増水時には掘削面が攪乱される環境を造成する。造成面は現況の池内水路の縦断勾配にあわせて約0.3%勾配の緩傾斜面を造成する。



図－5 今年度掘削地(2)の計画図



No. 5



No. 10

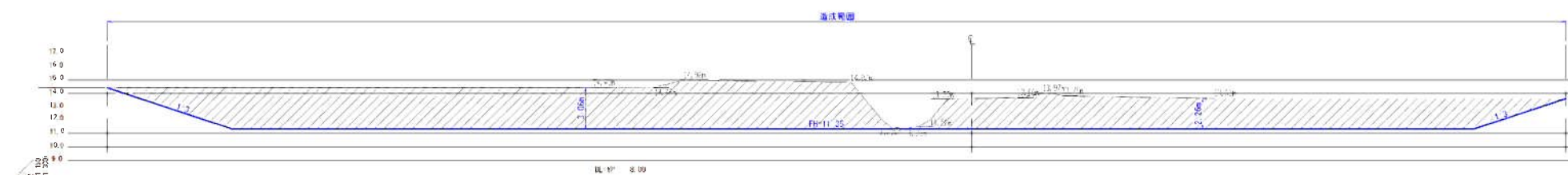


図-6 今年度掘削地(2)の平面図及び代表断面図

3.3 湿性草地再生実験地

- 掘削直後からヤナギ類稚樹群落分布しており、掘削後6年後にはヤナギ類低木群落が広域に分布していた。
- 表土播種区ではヤナギ類の侵入が抑制されていた。

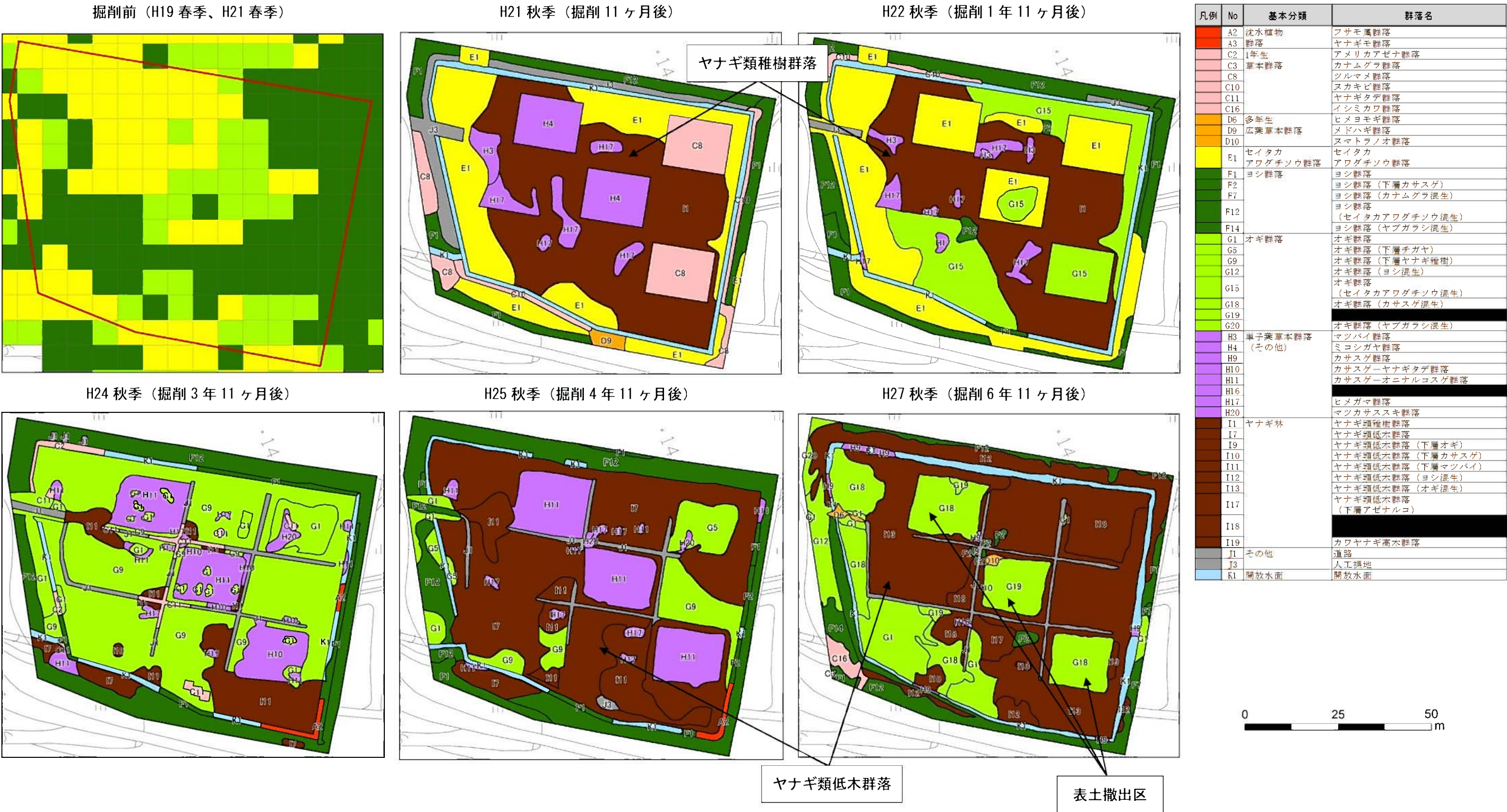
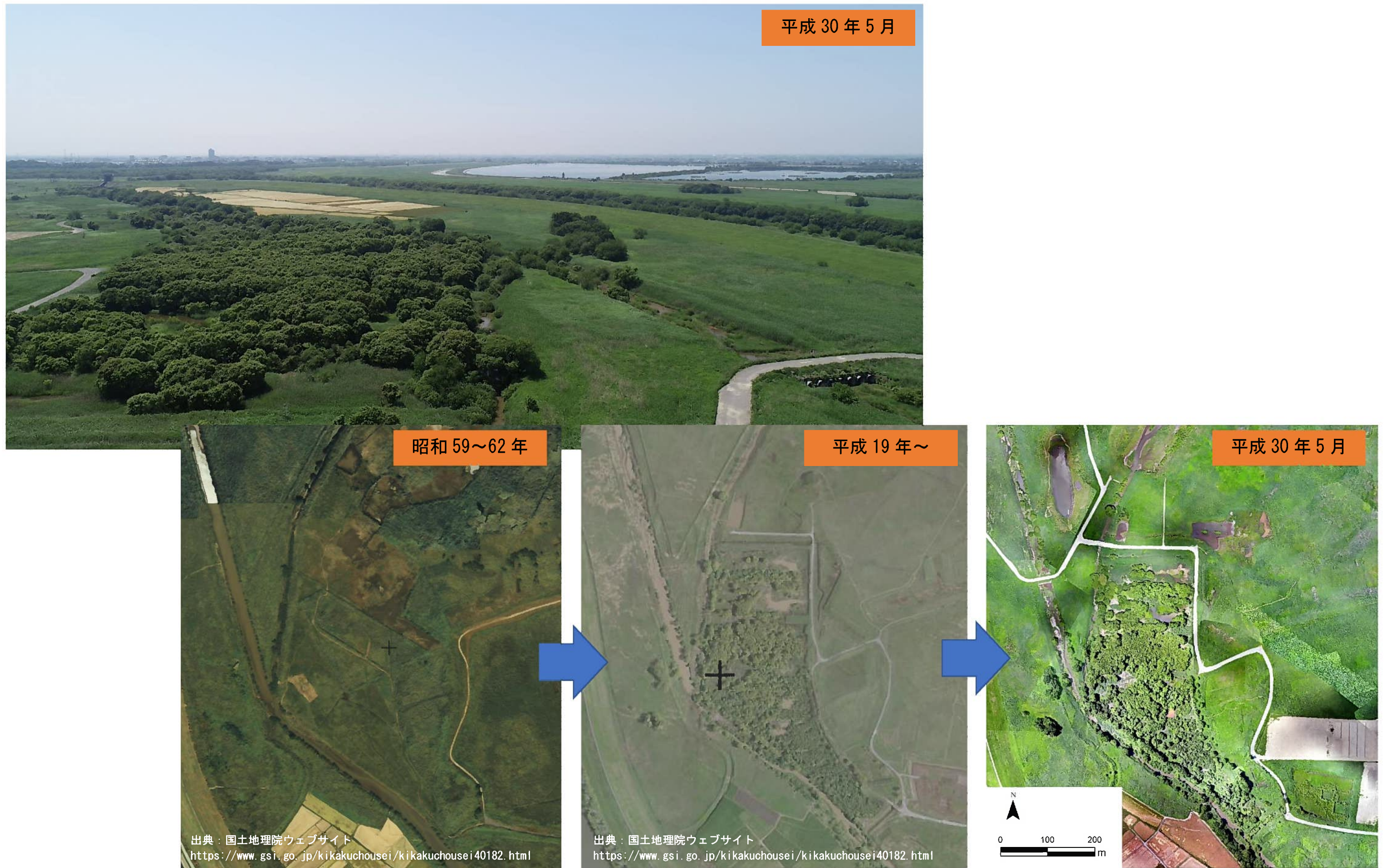


図-7 湿性草地再生実験地の植生図



図－8 湿性草地再生実験地の斜め写真(空中写真：R1.5撮影)

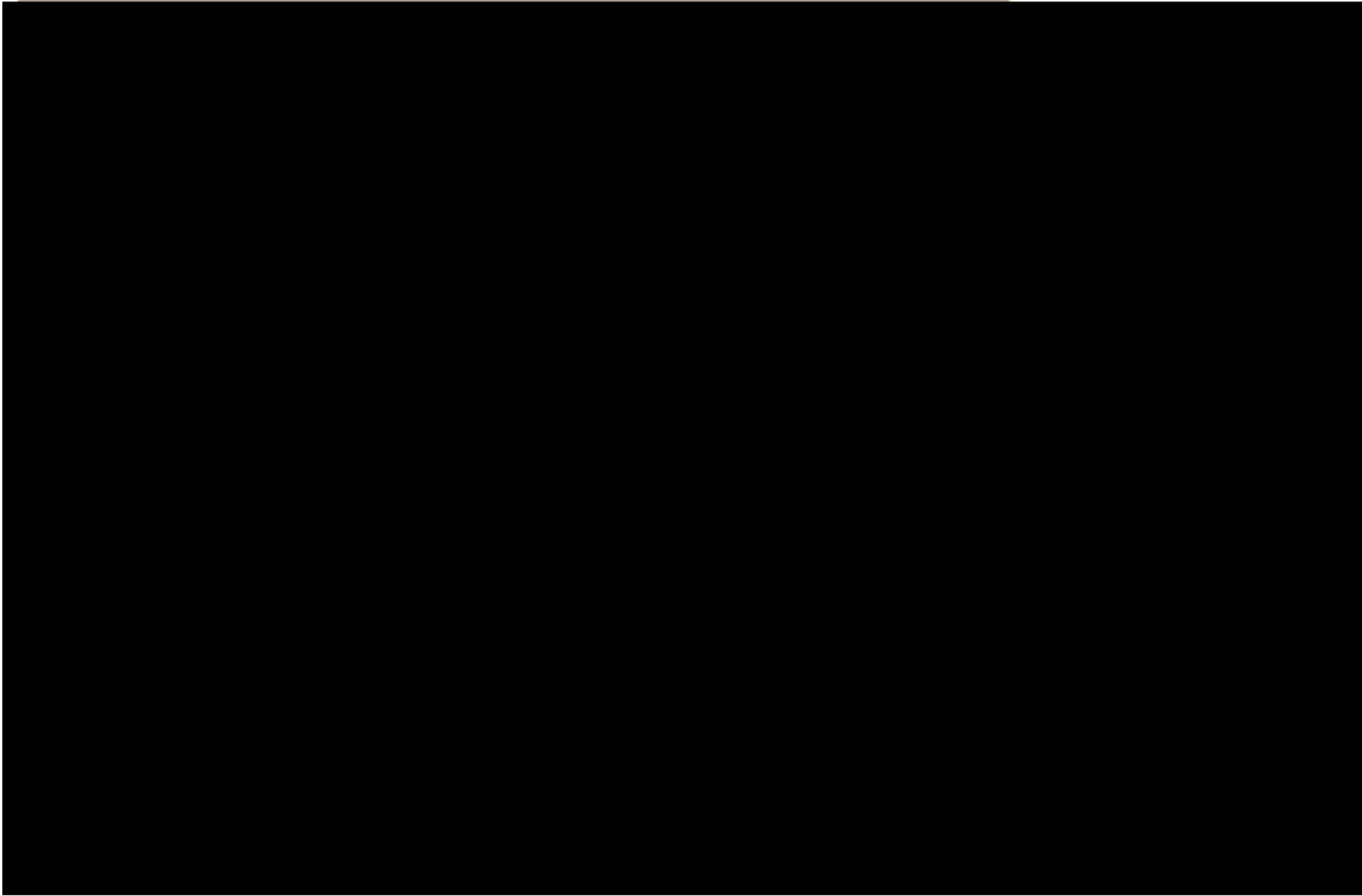
3.4 ヤナギ高木林



図－9 ヤナギ高木林の変遷

3.5 R1 年度掘削地(1)

- 水位変動型実験地、環境学習フィールド（2）、 湿潤環境形成実験地(1)、掘削回避エリアに囲まれた面積約 3.4ha の範囲である。
- 南側にセイタカアワダチソウが分布し、北側はヨシ－オギ群落等が分布している。



図－ 1 0 今年度掘削地(1)における植生分布状況

- 
- 地下水位データとして、水位変動型実験地のモニタリングに際して観測された平成 24～27 年の地下水位データを参照した。水位変動型実験地を横断するように地下水位断面ラインが設けられている。
 - 平成 24～27 年観測された地下水位データをみると、次期掘削候補地（1）における平均地下水位は Y.P.12.5m前後、最高水位は Y.P.13.0m付近、最低水位は Y.P.11.7m付近である。

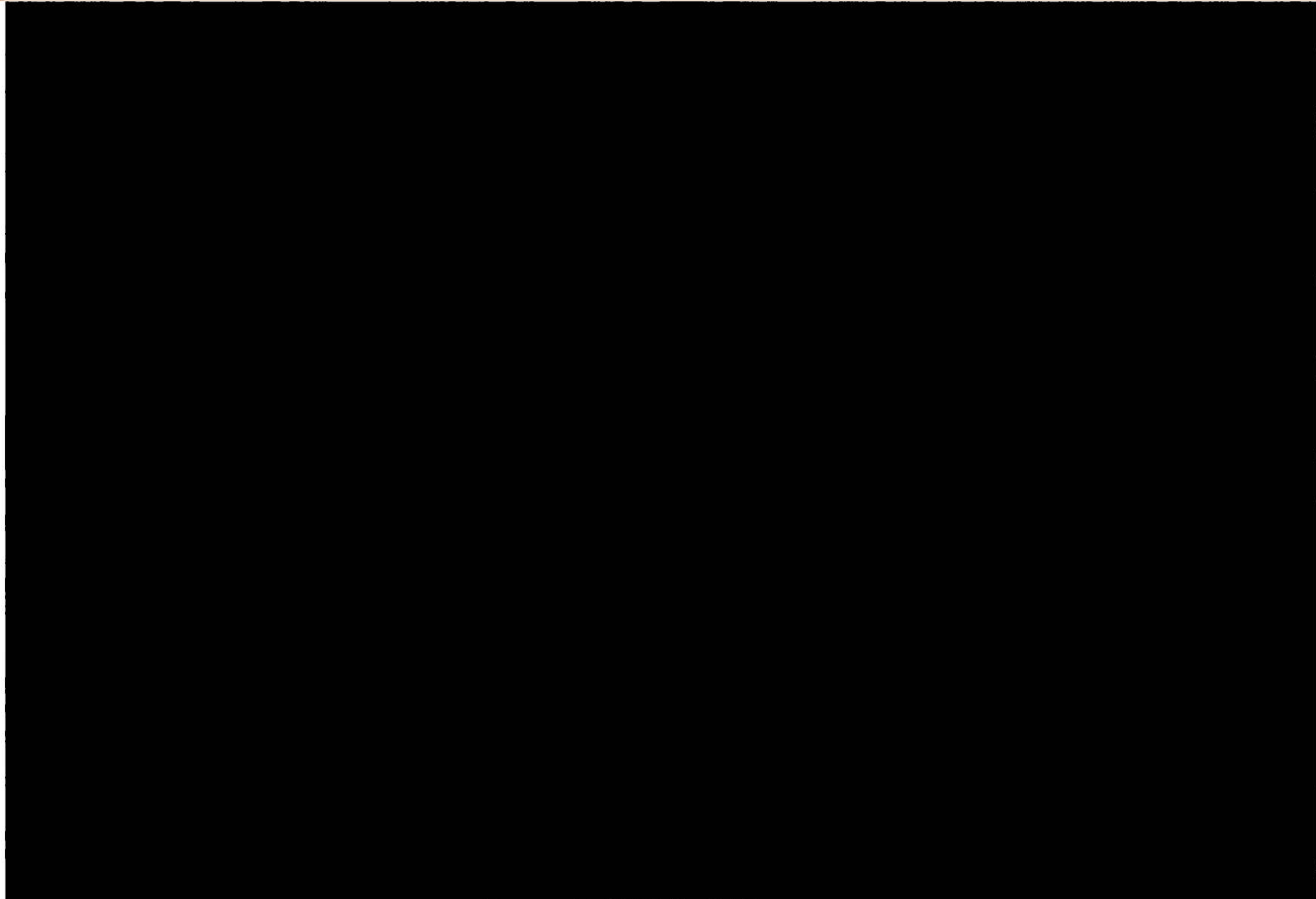
図－１１ 今年度掘削地(1)の掘削前の空中写真及び地下水位の状況

【池の掘削】

- 掘削回避エリア及び現況を保全する地区に近い範囲では、高い地下水位を維持するため、独立型の池（水深 1.5m程度）を造成する。
- 掘削する深さは、これまでに観測されている最低水位（Y.P.11.7m程度）よりも約 70cm 深く掘削し、渇水時でも水面が維持される池を造成する。
- 池の水際法面は 1:10～1:20 程度の緩やかな斜面を造成して、水深の深い場所では沈水・浮葉植物、水際付近では 抽水植物など多様な水辺植生の成立を目標とする。
- 水際よりも上部の斜面には、ヤナギ林の形成を抑制するための表土撒き出しを実施する。掘削地内のセイタカアワダチソウの分布が少ない範囲から表土を深さ 20cm で採取する。

【攪乱環境の造成】

- 下流側の与良川と隣接する範囲は隣接する地内水路の河床と同程度（Y.P.11.5m）まで掘削し、流路変化や水位変動などの攪乱環境に成立する多様な湿性植物群落を目標とする。



図－１２ 今年度掘削地(1)の計画図

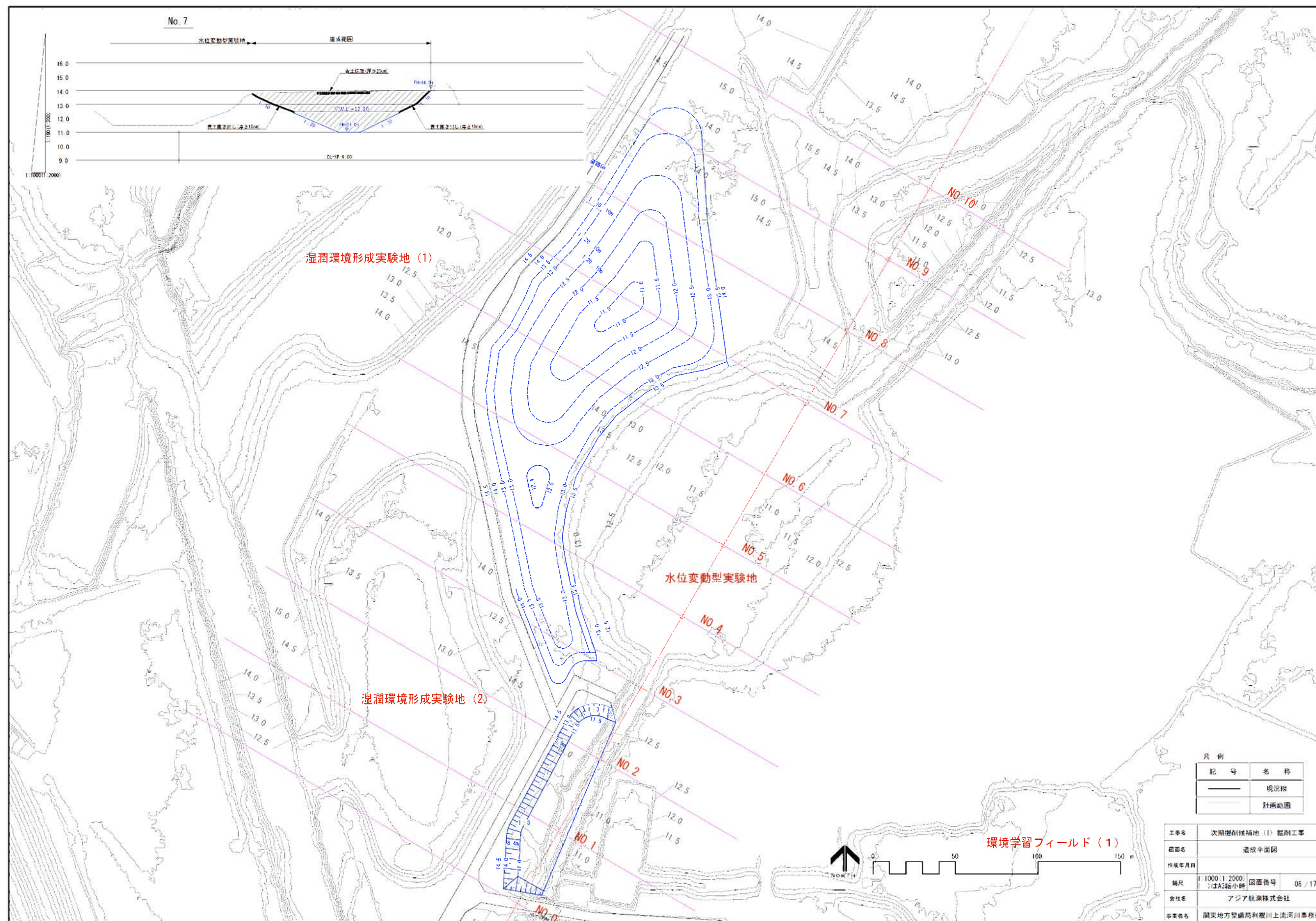


図-13 今年度掘削地(1)の平面図及び代表断面図